

2017.12.23 第2回関東・甲信越静地区 SGH 課題研究発表会（立教大学）

報告者：教諭 南雲 郁絵、教諭 高野 優史

12月8日に本校で開催し成果発表会にてステージ発表した2年生5チームのうち、1組と4組の計2班がKJ代表としてプレゼンテーション（日本語）部門に参加し、4組チームが金賞を受賞した。

【大会概要】 標記地区のSGH校から代表チームが集結し、プレゼンテーション（日本語、英語）やポスター（日本語、英語）を使ってこれまでの活動内容や成果、展望等を発表する。各教室での受賞者には全体の閉会式で表彰される。

●プレゼンテーション・・・日本語部門は16チームが2教室に、英語部門は28チームが3教室に別れて行う。

評価者は立教大学の教授で各教室2名。発表後に講評あり。教室毎に金賞1チームと銀賞1チームを決める。

●ポスター発表・・・47チームが7教室に別れて行う。評価者はポスターを見に来たすべての人である。日本語も英語も別れずに貼り出される。ポスターは英語で書かれているがポスターそばでの発表は日本語というチームもあった。

【評価者のコメント】

評価者からのコメントのうち、すべてのチームに該当することを部分的に抜粋した。

- ・テーマ（プレゼンのタイトル）と結論（伝えたいこと）がずれないこと。
- ・収支計画（ビジネスプラン）はぜひ初期段階から検討すること。夢物語で終わらないこと。
- ・SDGsの着目はこれからも大切になっていく。
- ・一つの分野や視点だけでなく、様々な分野や視点でも考えること。より広い視点、より広い視野で。
- ・「なぜ？」をもっと大切に。なぜ人口減少しているのか。子供が生まれないから？高齢者が亡くなるから？
- ・（主に海外で）現地の人にとあるモノを説明する際、現地にそれが無いと、現地の人たちは想像するのが難しい。
- ・自然が相手だとうまくいかないケースが多い（新発見かと思いきや新しくなかった・・・など）。
- ・1回出てきたアイデアでそのまま研究を進めず立ち止まり、第三者の視点で考え直すと良い。
また、一つのアイデアに固執・執着すると失敗することが多い。
- ・人間を相手にすることもまた難しい。相手のことが実はちゃんとわかっていないケースが多いためである。
まずは「私たちを知ること」から始めること。
- ・気になったことはフィールドワークに赴き現場を見て体感すべきである。データ（数値）だけ見て考えないこと。
- ・個人の中の理想があるから、理想的な未来がある。個人の中の「これ、何だろう？」を見逃さないこと。

【報告者のコメント】

意外と見落としてしまう視点や、生徒だけでは気づかないであろう視点であるので、そこを教員が生徒たちに対して指摘することで、生徒たちのプレゼンスキルや思考力が格段に良くなると改めて感じた。



